**2017/7/21**

**人災と人材**

どこのＴＶも、電力を浪費と無駄使いして、

*松居一代*を俎上に、

楽しく、賑やかに、非難を込めて言い放題。

批判者は、それこそ「万古不易の正義」を振りかざし、

元の仲間や同業者までが、チャッカリと検事席に居座る。

だが、その検事席の連中も、一皮か二皮むけば、

いつでも松居に合流できる被告席候補の代物。

観察をズームインとズームアウト操作を繰り返すと、

**松居が韓国（か中国）、船越が日本、**に見事に重なる。

松居を試料として観察し、内部に深入りすれば、

「これは、使える」と思う。

そこで、人災は人材へ。日本再生！極東平和！

結論ありきで進めると、

彼女を、「駐韓国日本国大使」が適役の人材配置。

松居、勇躍、かの地へ赴任すれば、

「ペコペコ大使」「おりこうさん大使」「お坊ちゃま大使」の、

従来の日本大使派遣のパターンから、脱却の好例となる。

さらに、かの地で、新任大使は、

本国からの訓令を受けることなく、

チャンチャンバラバラ、丁々発止と、

日夜、活躍の場を広げ、

面倒な、本省や政府や日本にお伺いを立てることもない。

こちらも、関わると面倒なことになるので、

任せておけばよい。これを「大使一任」と言う。

自己発信能力と相手非難能力はお手の物。

気の毒に、かの国は、

新大使への対応と対策に翻弄され、

「慎重に検討」と、「真意をはかりかね」と、

結果、憂慮に明け暮れる。

また、この特命全権の新大使は、これこそチャンスと、

「謝罪するまではやめない」とかの国に笑顔で迫れば、

立場は逆転となる。

かの地で経験を積み、人脈を形成し、

数年後には、日本籍を捨て、韓国籍を取得し、

満を持して、入党し、党首に上り詰め、

目標は、大統領を目指す。

近くは、日本国に、

先輩の民進党党首蓮舫先生の例がある。

ここに、朝鮮半島の、そのまた半島と日本が、

誼を通じることになる。

極東アジア平和構想の実現が、期せずして可能となり、

ノーベル平和賞も夢ではない。

ナポレオン曰く（原文は、当然フランス語だが）

In politics, stupidity is not a handicap.